

## 平成30年度対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力 「メイ・ペン病院医療機材配備計画」贈与契約署名式

2018年12月6日、山崎大使は、保健省にて行われた、平成30年度対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力「メイ・ペン病院医療機材配備計画」の贈与契約署名式に出席しました。

メイ・ペン病院は1974年の開院以来クラレンドン県最大の病院として地域の医療を支えてきましたが、長らく整形外科がありませんでした。地域住民のニーズに応えるべく2017年2月ようやく整形外科が開設され、現在までたくさんの患者が同科で診療を受けてきましたが、同科は約80%の外科手術に必要なシー・アームと呼ばれるエックス線撮影装置を保有しておらず、同装置を必須とする外科手術対象患者は、同装置を常備している県外の病院で手術を受ける必要がありました。しかしながら、県外の病院でも手術をすぐに受けられるわけではなく、緊急手術が必要な患者は最大2ヶ月、緊急ではないが手術が必要な患者は最大2年間、手術まで待機している現状です。必要な時期に適切な処置を受けられない患者に、骨の変形、関節リウマチ、機能障害などの後遺症が残ってしまう問題が生じています。

このプロジェクトで供与される86,780米ドルで、メイ・ペン病院はシー・アームを購入します。シー・アームの導入により同病院整形外科で手術を必要としている患者が、適切なタイミングで手術を受けられることができるようになります。患者の治療期間が短縮され、患者の疼痛が計然され、患者は後遺症が残らずに骨折前と変らない生活を取り戻す可能性が高くなると期待されています。結果として、メイ・ペン病院の患者を受け入れていた県外の病院の患者数が減少し、手術待ちの時間が減ることになり、県外病院の患者もまた本件に間接的に裨益することになります。

署名式に出席したタフトン保健大臣は、50年以上に渡り様々な方法でジャマイカの各分野への支援を続けている日本を「最も心強いパートナー」であると高く評価し、ジャマイカ、特にクラレンドン県の人々に良い影響をもたらす本プロジェクトの実施に対し感謝の意を表しました。

山崎大使は、シー・アームの整備により、メイペン病院の医療環境が進展し、クラレンドン県の医療福祉が発展し、この支援がジャマイカの人々がより健康により良い環境で生活することの一助になることを期待すると述べ、ジャマイカの医療分野への支援は今後も日本にとって重点分野の一つであると強調しました。



メイ・ペン病院に対する支援の喜びを述べる山崎大使



日本の支援に感謝を述べるタフトン保健大臣



メイ・ペン病院エドワーズ主席医務官の司会のもと署名式は執り行われた。



署名をする山崎大使とメイ・ペン病院シンクレア事務局長



左から：シンクレア事務局長、タフトン大臣、山崎大使



左から：エドワーズ主席医務官、シンクレア事務局長、タフトン大臣、山崎大使、クラレンドン県グラント保健部長